



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 自動体外式除細動器

5

## (Automated External Defibrillator : AED)

花冷えのする3月半ば、21時52分。某大学病院救命救急センターの正面玄関に救急車がすべりこむ。白衣姿の数名が待ち構えている。

10

救急隊員が素早い動きで救急車の後方扉を開け、ストレッチャーで患者をセンター内の第1処置室に搬送する。

「バイタルは？」救命救急センター医長、國井ゆり医師が叫ぶ。

「血圧120/70mmHg、脈拍72回、呼吸数20回、前胸部に不快感があるものの、血行動態は安定しています」救急隊員が明確に答える。

15

ストレッチャーを押しながら、救急隊員は続ける。「患者は58歳男性。糖尿病、高血圧の既往あり。本日21時30分ごろ、駅構内ホームにて胸痛を訴え、その場で意識消失。傍にいた同僚が心肺蘇生を開始。2分45秒後に駅員が駅構内のAEDにて電気ショックを1回施行。4分40秒後に救急車到着、AEDパッドを装着のまま当センター到着完了」

20

國井ゆり医師は「了解」と一言。

即座に、「12誘導心電図を」「循環器内科に連絡、心臓カテーテル検査の準備をして。左前腕に留置針20ゲージを挿入します。輸液はカリウムフリー500mlの用意して。点滴スピードは時間50mlで。ニトログリセリンも用意しておいて」

25

的確な指示が飛ぶ。研修医、看護師、検査技師達は全ての業務を的確にこなしていく。

本ケースは、クラス討議の資料とするために慶應義塾大学経営管理研究科 田中 滋教授の下、裴 英洙 (M30) によって作成された。経営管理の巧拙を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 田中 滋、裴 英洙 (2009年9月作成、2010年11月改訂)